

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (観光交流×アジアコース)			訪問国	台湾
学校名	角川ドワンゴ学園 N 高等学校	氏名	井上 颯	学年	2 年

私の留学の動機はコロナ後静岡県を訪れる外国人観光客の回復率が50%と低く（全国最低）、その原因と解決策を知りたいと考えました。中学入学以来中国語を勉強していたこと、地方創生に関心が高かったことから、台湾での探究活動を目標に、トビタテの応募を決意しました。

私の留学目的は、静岡県に台湾からの外国人観光客を増やすために、デジタルマーケティングの効果的な活用方法を学ぶことでした。そのために、以下の探究活動を行いました。

まず、受け入れ先機関でDX（デジタルトランスフォーメーション）の基礎知識やマーケティング手法について学び、観光業に関連する中国語の授業を毎日受講しました。次に、ふじのくに静岡台湾事務所を訪問し、現地での取り組みや課題についてインタビューを実施しました。また、台湾での静岡県の認知度を把握するため、街頭インタビューを行い、現地の人々の意見や印象を収集しました。さらに、台湾の旅行代理店も訪問し、日本旅行がどのように紹介・販売されているのかを調査しました。

また、アンバサダー活動としては、静岡茶の歴史や特徴を中国語で説明しながらお茶を淹れ、台湾の方々にふるまい、静岡県の魅力を直接伝える機会を設けました。

これらの活動を通じて、静岡県の観光促進における課題や可能性について理解を深めることができました。

特に印象に残っている活動は静岡県の認知度を調査するための街角インタビューで、約50組の台湾の方々に飛び込みでお話を伺いました。すべて中国語でのインタビューでしたが、拙い言葉にもかかわらず、多くの方が温かく協力してくださいました。老若男女、さまざまな背景を持つ台湾の方々と直接交流する中で、異文化コミュニケーションの素晴らしさを改めて実感しました。また、台湾の方々が日本文化への深い愛情を持っていることを知り、誇らしい気持ちになったと同時に、台湾の人々への親近感が湧いてきました。お互いの文化を尊重し、楽しみ合える関係性の素晴らしさを肌で感じる事ができた瞬間でした。



さらに驚いたのは、静岡県が想像以上に認知されていたことです。留学前には考えもしなかった嬉しい発見でした。しかし一方で、実際に静岡を訪れたことがあるという台湾人は少なく、静岡県の観光業が抱える課題の大きさも痛感しました。

今回の経験を通して、私は台湾という国に強く惹かれ、大好きになりました。文化を超えてつながる喜びを知り、自分自身の視野が大きく広がった気がします。

今回の台湾への留学を通して、しっかりと事前準備をし、情熱を持って行動をしていれば、周りからの協力を得られるということを知れました。

静岡県には「やらまいか精神」という、「やってみよう」と前向きに挑戦する姿勢を表す言葉があります。失敗を恐れず新しいことに挑戦するこの精神は、地域の気風を象徴しています。留学中、不自由や困難に直面することもありましたが、気後れせず思い切って飛び込むことで、不思議と道が開ける瞬間がありました。この経験を通して、「やらまいか精神」の大切さを実感し、今後の人生でもこの姿勢を守り続けたいです。

将来は日本と世界をつないで、日本の魅力をより高めて、より活性化させたいと思っている。

そのためにも日本の都市の魅力を高めてより多くの人を惹きつけて、感動させられるようにしたい。

世界を飛び回り、多くのことを見て学んで、日本の都市を活性化させて、世界と日本の、都市と都市、都市と人、人と人をつなぐ事業にたずさわっている。

この夢を実現するために、多言語を学び、より多くの国を訪れたい。

